

1. ポーランドにユダヤ人が多いのはなぜかという問いを解決するだけでも、スペインからのイスラム勢力追放、イスラムとキリスト教徒の角逐、ドイツの宗教改革、プロテスタント勢力によるユダヤ人追放など様々な国と文化とが絡んでくる・・・一つの事柄を調べて突き詰めていけばヨーロッパについて幅広く知ることが出来ると、とても楽しみ。
2. 宗教的迫害などの結果、沢山のユダヤ人が流れ込み住むようになったポーランドでも、だんだんと現地住民がユダヤ人に反感を持ち、反ユダヤ勢力が出来た流れ<sup>1</sup>を学んだ。・・・反ユダヤの人は、どういう経緯で反ユダヤになるのか、本当に知りたいと思った<sup>2</sup>。
3. 反ボルシェヴィキ・反ボルシェヴィズムと反ユダヤ主義という一見ジャンルが違うものを、恐怖や不安で結びつけてしまうのは、ソ連崩壊後しか知らない私たちにとってはあまり理解出来ないが、それだけボルシェヴィズムが衝撃的で大きな影響力を持っていたことを感じました<sup>3</sup>。
4. アメリカは移民の国ということは知っていたが、ドイツ系の人が多かった（今も多い）ことは驚き。毎回授業で触れるテーマがどれも楽しそうな内容のため、そろそろ調べるテーマを決めようと思う私にとっては複雑。FWの関係上やはりナチスやホロコーストに興味があるので、その辺の内容に絞っていただけるといいと思います<sup>4</sup>。

---

<sup>1</sup> イエドバブネ事件が、この問題を考える上でも重要な手掛かりになるでしょう。これは、ずっとナチスが行ったユダヤ人殺害事件とされてきたものですが、実は、ポーランド人が行ったことが判明した事件です。ポーランド人の中にあつた反ユダヤ主義の暴発事件だったので。

ポーランド社会における反ユダヤ主義は、ナチスが占領支配下のポーランドで、すべえの罪をユダヤ人になすりつけるため、たとえば「闇」、「伝染病」などの罪をユダヤ人になすりつける際に、活用したものです。

<sup>2</sup> ヨーロッパ、キリスト教社会の2千年の歴史のなかに、反ユダヤ主義が激化する事件を捜し、そのそれぞれの事件でユダヤ人がどのように攻撃されているかを調べることで、「本当の理由」を明らかにしていくことができるのではないのでしょうか。いいテーマです。どのように問題を絞り込むか、そこが期末レポートとしてまとめていくうえでは、重要になってきます。

<sup>3</sup> まさに歴史認識・ヨーロッパ社会認識にとって重要なポイントです。

ヒトラー・ナチズムの主張の主題のひとつが、ユダヤ=ボルシェヴィズムで、二つの徹底的殲滅が目標となりました。時間が無くなり、説明していなかった点ですが、「戦争の責任者ユダヤ人に命で償わせる」(ヒトラー)、ユダヤ人問題「パルチザンとして根絶」(ヒムラー)という発想と行動を検討してみてください。

この問題の世界的研究の高い水準での総括的まとめとして、大部2冊のイアン・カーシヨ著『ヒトラー』上下(白水社、2016年)を、その一部でも、ぜひ一読してください。市大図書館にも入れてもらえることになりましたので、お知らせしておきます。タイトルはヒトラーですが、ヒトラーを生み出したドイツとヨーロッパの問題を知ることが出来る総合的歴史叙述です。

<sup>4</sup> どこかに絞り込むにあたっては、これまでの体験から最も解いてみたいテーマを探すとい

5. 多文化共生について学んでいるので、他者を排除しようとするナチスの行為から現在の「ヘイトスピーチ」などの問題について考えてみたい。期末レポートのテーマがまだ思い浮かばない。ユダヤ人と当時の日本人とのかかわりについて、とくに杉原千畝が亡命を求めユダヤ人のビザを発行したことについて興味がある<sup>5</sup>。
6. アイヒマンやアーヘン大学元学長の「過去の隠ぺい」に関連して・・・我が身を守るためとはいえ、嘘をつき通し、自分を隠して生きていくというのはどれほどの精神力でしようか。・・・想像も出出来ません<sup>6</sup>。
7. ナチ残党が中南米に逃亡したのは初耳でした。
8. 中南米に逃げたナチ残党は、中南米でいったいどのような生活をしたのか、貧しい暮らしだったのかどうか、気になった<sup>7</sup>。
9. アラブの春から始まり、緊張状態の激化している今この時に、これまで反差別的な姿勢を取ってきた各国がそれを翻し始めている現状に戸惑いを強く感じます。国策などのマクロ次元だけでなく、ミクロレベルでの市民からの支持にも驚きを隠せません。このような態度の変化の原因はいったい何なのか、強い関心を持ちました<sup>8</sup>。
10. なぜ敗戦、終戦を迎えると同時に反ナチスに国民のマインドがすぐに切り替わったのですか？ナチスによる国民支配はうまく統率されていなかったということですか？<sup>9</sup>

---

うことになりますね。問題を適切に設定できることは、期末報告・論文作成の重要な部分が出来上がったことと同じです。報告を期待しています。

<sup>5</sup> 杉原千畝の問題・業績に関しては、かなり多くの文献・資料が出ていますので、適切に問題を設定すればいい研究調査が出来ると思います。また、ポーランドのユダヤ人に関して、かなりの文献がありますので、図書館のキーワード検索で、いろいろ探し、これはという本を見つけることが出来れば、いい研究調査結果が出ると思います。

<sup>6</sup> これについても、アイヒマンの裁判記録や前回紹介した『ナチスからの回心—ある大学長の欺瞞の人生』などさまざまな文献がありますので、どのような精神力だったのか、検討してみる価値は十分にありますね。なぜ、どのように、どうして・・・？と。

<sup>7</sup> これまた、その問題意識・疑問に焦点を当てて、アイヒマンその他に関する文献を捜し、生活を探ってみるという研究調査は、興味深いですね。いいテーマになると思います。

<sup>8</sup> まさに、この問題設定・テーマは、期末報告のための研究調査で解きほぐしてみる価値のあるテーマだと思います。国粹主義的・民族主義的な排外主義・差別主義は人々のなかでどのような諸要因で発生し、広がり、激化し、国の政策を変えていくのか？ナチスの場合にもまさにこれが大問題ですし、現在のヨーロッパ各国、そしてアメリカのトランプ旋風など、ナショナリズムの高揚、右翼勢力の拡大に関しても、探究すべき重要問題です。

現在の問題だと、資料は現在の新聞雑誌が中心になりますし、過去にさかのぼると、歴史研究書・論文を探し出すことが必要になります。

<sup>9</sup> 大変重要な問題。敗戦という事実、勝者としての戦勝国の占領支配は、民衆意識の根本的な変化を考えるうえで決定的に重要。

戦争末期については、拙著『独ソ戦とホロコースト』（日本経済評論社、2001年）、第7章 疎開、逃避行、追放による難民化と「普通のドイツ人」、を参照してください。ナチス

11. 人種主義というものは、とても恐ろしいものであると思った。人が産まれたときから何もしていなくても、「存在」だけで差別されてしまう。自分の家族や自分が被差別対象であると分かったとき、人種主義者たちはどのような行動をとるのだろうか？<sup>10</sup>
12. 戦後ドイツが自らが起こした罪を受け止め、向き合い、後世につなげようとしたかがよくわかりました。戦後の私たち日本人も、みずからが戦前、戦中にしてきた罪を明らかにし、認め、後世へつなげることが必要ではないかと感じました。その姿勢を戦後自分たちで見せなかったことが、現在の慰安婦問題や南京虐殺問題など近隣の国々にある歴史認識との差が出来てしまったのではなからうか。・・・この講義はヨーロッパ社会を学ぶものですが、今までの高校時の暗記型のものではなく、どうしてそうなのか、何がいけなかったのかを考えることができるので、ヨーロッパ社会だけについて学ぶのではなく、日本のこと、自分たちの歴史と比較考察でき、現在の私たちには必要なことではないか、と思いました<sup>11</sup>。
13. 日本において戦犯は靖国神社に祭られており、政府関係者が参拝するなどよく話題になるが、ドイツでは戦犯は戦犯と割り切って、悪と考えており、両者の違いに驚いた。なぜ日本は日本で侵略をはっきり悪と受け入れないのか、またドイツではきっぱりと割り切れているのか、疑問に思う<sup>12</sup>。

---

初期を中心に、村瀬興雄『ナチス統治下の民衆生活 その建前と現実』（東京大学出版会、1983）同『ナチズムと大衆社会 民衆生活にみる順応と抵抗』有斐閣選書、1987を参照。

<sup>10</sup> これまた重要な問題意識。人種や民族をひとまとめにして断罪したり、優劣を評価したりする人種主義や民族主義が、どうして人々の意識をとらえることが出来るのか、そのメカニズムを考えることも、重大な検討テーマ。人種主義や民族主義がどのような要因で弘人の中に広がるのか、あるいは払しょくされるのか？

<sup>11</sup> まさに、ヨーロッパの歴史を考えながら（すなわち鏡にしながら）、日本を考える（自分を見つめる）ことが、大切です。その考えを深めるためのテーマ・問題の発見に期待します。

<sup>12</sup> 大変重要な疑問です。ただし、「日本においては」といいますが、日本の侵略の歴史を認めようとならないのは、日本人全体でしょうか、それとも特定の政党・人々・勢力でしょうか？

「ドイツでは戦犯は戦犯と割り切っている」という場合、ドイツ人全体でしょうか？それとも？ネオナチはどうでしょうか？ドイツの極右勢力はどうでしょうか？「アウシュヴィッツ否定論」が欧米に見られることは、どのように考えたらいいでしょうか。ドイツではアウシュヴィッツ否定論は、刑法上の犯罪として取り締まられ、刑事訴追されますが、それはドイツの政府・国家の姿勢を示し、圧倒的多数のドイツ人が政府の姿勢を支持しているのですが、そうでない人々もいることも直視しておく必要がないでしょうか。

日本を代表する政府・その長である首相が、どのような態度であるのか、その首相を選出した与党は、どのような態度でしょうか？

靖国神社に参拝する議員団もいる一方、それを批判する議員団もいます。「日本」のなかで、政党・勢力によって歴史を見る目、歴史に向き合う姿勢が、違っている、ということです。したがって、自ら、どう歴史と向き合い、どういった歴史認識を持つのか、これが、対立する歴史認識を前にして、各人に問われています。そのためにも、歴史を研究し考えていくことが求められます。期末論文は、その一つの重要なステップになります。

14. ホロコースト、ヒトラー関連の映画をたくさん観てみようと思い、先週は『[ヒトラー暗殺、13分の誤算](#)』を観ました。強引な取り調べは恐ろしかったです。暗殺を企てた人の存在を隠していたことは不思議でした<sup>13</sup>。もっと映画を観たいなと思いました。今気になるのは、ナチが力をつけていく中で、国民たちはどうしたかです<sup>14</sup>。『白バラの祈り』が気になります。学生運動や逮捕された共産主義者たち。そのような人々に目を向けて考えていきたいです。
15. ワルトハイム事件・・・アイヒマンのような協力者や裏ルートがあったのか？<sup>15</sup>
16. オーストリアなど、ドイツの占領下にあった国々が、現在、ナチスなどに浮いてどのような養育を行っているのか気になっていたので、調べてみたい<sup>16</sup>。
17. 先日テレビで「カストロ VS チェ・ゲバラ」を言う番組を見て、大戦時のヨーロッパや米国とキューバの関係に興味があった<sup>17</sup>。

---

<sup>13</sup> 「暗殺」という方法は、世界の歴史のなかでも、多くの事例がみられます。しかし、「暗殺」（テロ）という方法は、政治体制を変えることに役立つでしょうか？

民主主義の原理・重要性からすれば、テロを称賛するようなことは許されないでしょう。

ヒトラー暗殺事件（1944年7月20日事件－クーデター計画・失敗）の映画『[ワルキューレ](#)』も、一見の価値あり。

民主主義の制度が安定し、人々が平和的に政治の方向を変えることが可能であったかどうか、これが問題となります。言論・出版・結社の自由は、その意味で極めて大切な憲法的要請です。時の政府・権力者がこの自由を破壊しないように、国民が民主主義的に成熟する必要があります。

「白バラ」の人々は、テロを行ったわけではなく、ヒトラー政府が行っている戦争が犯罪的な性格のものだということを言論弾圧・出版禁止のなかでビラで訴えました。そのヒトラー政府批判・戦争批判のビラが、犯罪として取り締まられた、逮捕し即座に処刑された、というのが白バラ事件ですね。ぜひ、[映画『白バラの祈り』](#)を観てください。

[映画『ヒトラー～最後の12日間～』](#)も。

<sup>14</sup> この問題についても、たくさんの書物がありますが、最新の世界の研究の踏まえたものとして、[イアン・カーショー著『ヒトラー』上下（白水社、2016年）](#)の一読をお勧めします。

<sup>15</sup> 面白い問題提起です。ぜひ、調査してみてください。期末報告にまとめるだけの史料が見つければいいですね。事件発生当時の新聞記事などを探索してみてください。

<sup>16</sup> ぜひ調べてみてください。歴史教科書問題など、文献はかなりありますので、図書館で、検索してみてください。最初の手がかりとして、[歴史教育と教科書 - 岩波書店](#)を推薦。

<sup>17</sup> 面白いテーマです。期末小論文のための研究調査の問題として、調査を進めてください。